

今年度の各教科等概要集

本研究計画作成試案では、県小教
研会員の誰もが内容を理解できるよ
うに、各部会でレイアウトや解説の
方法を工夫しています。

また、学習や研究を進める上で大
切にしたい事項を「概要集」という
形で提案しています。

日常の学習指導や研究推進におい
て、十分に活用していただきますよ
うお願いします。

◆◆◆ 国 語 科 ◆◆◆

<目指す子供の姿>

主体的・対話的に言語活動に取り組み、考えを深
めていく子供

<授業実践の重点>

①言葉による見方・考え方を働かせる

言葉による見方・考え方を働かせるとは、言葉で
表される話や文章を、意味や働き、使い方等の様々
な側面から総合的に思考・判断し、理解したり表現
したりする姿とする。

②主体的・対話的に言語活動に取り組むための工夫

子供が主体的に取り組むためには、単元を通して
追究する学習課題を明確にし、目的意識と見通しを
もつための手立てが必要である。また、子供が対話
的に取り組むためには、考えを交流する必要感や価
値をもつことができるようにしたり、学び方（学習
形態や学習方法等）を自己選択・自己決定できる場
を設定したりすることが大切である。

③自らの学びを調整し、成長を自覚するための評価の工夫

子供が「何が分かったのか、できるようになった
のか」等、自分の成長を自覚し、学習の手応えを感
じられるように、学習内容や学び方について様々な
視点から振り返る場を設定する。また、子供が自ら
の学びを調整し、次の学習への意欲や見通しをもつ
ことができるように、学びを蓄積・共有できる場を
設定することが大切である。

◆◆◆ 社 会 科 ◆◆◆

<目指す子供の姿>

社会的な事象に進んで関わり、社会的な見方・考え
方を働かせながら、考えを深めていく子供

<授業実践の重点>

①社会的な見方・考え方を働かせる

社会的な見方・考え方を働かせるとは、位置的・空間
的の広がりや時間の経過、事象と人々の相互関係に着目し
て捉え、獲得した知識を比較・分類したり、総合したり、
様々な事柄と関連付けて考えたりしていく姿である。

②社会的な事象に進んで関わる

子供は、対象とする社会的な事象に出会い、学習を進め
ていく中で調べたり、話し合ったり、体験したりしなが
ら、自分が感じていることや考えていることを確かめたり
広げたりする。その中で新たな気づきや問いが生まれ、
学習への意欲を高めたり、異なる視点から考えたりし
ながら、その社会的な事象を深く知ろうと主体的に関わ
る。子供が人の営みや社会の仕組みを捉えられることを
念頭に置き、教材選定・単元構想をする。

③社会的な見方・考え方を働かせて資質・能力を身に付けていく学習過程の在り方

子供が、社会的な見方・考え方を働かせながら考えを
深めるためには問題解決的な学習過程を充実させること
が大切である。問題解決の見通しをもって友達と協働的
に取り組みながら社会的な事象を多角的に捉え、考えを深
めていく学習過程を構想する手立てが必要である。

◆◆◆ 算 数 科 ◆◆◆

<目指す子供の姿>

数理的な事象に主体的・対話的に働きかけ、自ら
の学びをつくり上げる子供

<授業実践の重点>

①数学的な見方・考え方を働かせる

「数学的な見方・考え方を働かせる」とは、事象
を数量や図形及びそれらの関係などに着目して捉
え、根拠を基に筋道を立てて考え、統一的・発展的
に考える姿とする。

②数学的に考える資質・能力を育成するための単元計画

領域を貫く大切な数学的な見方・考え方は何か、
この単元で子供はどのような数学的な見方・考え方を
働かせるのかといった視点から育成すべき数学的
に考える資質・能力を明確にしておくことが大切で
ある。また、子供がどんなことにつまずくかについ
て、教師がしっかり想定して、適切な手立てを講じ
ておくことも必要である。

③問いをもち、数学的活動を通して考えを深めるための場の工夫

教師が、子供一人一人の発言やつぶやきから、そ
の子供の考えのもつ数学的価値を的確に捉え、立ち
止まり、考えのよさに気付けるように問い返したり、
子供同士の深い関わりが生まれるように、共通
の図で考えたり、考えを見つめ直す視点に気付く発
問を工夫したりする。個別最適な学びと協働的な学
びのバランスを考えていく必要がある。

◆◆◆ 理 科 ◆◆◆

<目指す子供の姿>

自然の事物・現象についての問題を科学的に解決していく子供の育成～主体的・対話的な学びを通して～

<授業実践の重点>

①理科の見方・考え方を働かせる

	領域	内容		内容
見方	エネルギー	量的・関係的	考え方	比較する
	粒子	質的・実体的		関係付ける
	生命	共通性・多様性		条件を制御する
	地球	時間的・空間的		多面的に考える

上記の見方・考え方を働かせて、問題解決に取り組む。

②主体的に問題解決に取り組む、理科の資質・能力を育成するための教材研究・単元構想

<教材研究>・・・学習指導要領の分析、子供の実態把握、専門分野・先行研究の調査等を行い、育成したい資質・能力を明確にする。

<単元構想>・・・「一人一人の予想や仮説に応じた実験の実現」を目指す。実験方法を子供自身で考えて取り組むことで、主体的な学習の具現化を図る。

③ねらいとする資質・能力を育成するための「対話」の手立て
「考えと考えの比較」や「考えと事象の比較」を通して、子供が矛盾に気付いた時、対話が有効に働くと考え、ねらいとする資質・能力を念頭において、手立てを講じる。

◆◆ 生活科・総合的な学習の時間 ◆◆

<目指す子供の姿>

思いや願いの実現に向けて探究しながら、可能性を自ら拓いていく子供の育成

<授業の重点>

「子供理解の原則に立つ」ことと「探究」について、子供が主体になることを目指して取り組む。一人一人の子供が自分らしさを発揮しながら、仲間と共に学ぶことを大切にしていきたい。

①思いや願いの実現に向けて

学習材と子供が、はたらきかけ合いながら、子供に次第に思いや願いが湧いてくる。自ら伸びていく存在である子供は、その実現を自ら求めていくこととする。

②探究しながら

「自分らしく取り組む」「自分の問題をもつ」「自分の成長を実感する」過程が一人一人のペースで高まっていくこととする。

③可能性を自ら拓いていく

「もっとできる」と取組や考えに対する更なる納得を自ら求め続けたり、「自分にはこんなよさがある」と取り組んできた自分について理解を深めたり、「これからも続けていきたい」と自分の生き方を見直したり責任をもったりすることとする。

◆◆◆ 音 楽 科 ◆◆◆

<目指す子供の姿>

音楽的な見方・考え方を働かせ、音楽と豊かに関わろうとする子供

<授業実践の重点>

①音楽と豊かに関わるための題材構成や教材選択の工夫

音楽の構造等を分析し、[共通事項]を要として、各領域や分野との関連を図ったり、必要な知識及び技能を身に付けるための常時活動を取り入れたりする。

学校や地域の実態に応じて工夫したり、他教科と関連させた学習を横断的に展開させたりするなど多様な音楽とのつながりを子供が意識できるようにする。

②主体的・対話的で深い学びにつなげるための学習過程の工夫

自己の学習を見直ししながら思いを確かにしていく学習過程や、一人一人の思いや意図を引き出す学習環境の工夫が、子供の主体性につながり、意欲を高める。

一人一人が聴き取ったことと感じ取ったことを関連付けながら互いに対話を通して交流し合うことで、気付きを共有したり、感じ取ったことを共感したりすることができるようにする。

③一人一人のよさや可能性が生きる評価の工夫

授業の中での子供の発言や行動、表現等を瞬時に見取り、対話の中での問い返しや個別の指導に生かしたり、子供が願う表現をするために必要な指導を適宜行ったりするなど、指導に生かす評価を工夫する。

◆◆◆ 図画工作科 ◆◆◆

<目指す子供の姿>

造形的な見方・考え方を働かせ、つくりだす喜びを味わう子供

<授業実践の重点>

①造形的な見方・考え方を働かせる

「造形的な見方・考え方」とは、感性や想像力を働かせ、対象や事象を、形や色等の造形的な視点で捉え、自分のイメージをもちながら意味や価値をつくりだすことである。この見方・考え方を働かせ、つくりだす喜びを味わう姿を目指す。

②教材研究と題材構想の工夫

子供の発達の段階やそれまでの経験等を考慮し、子供自身が課題意識をもち、表したいことを見付けたり、どのように表すかについて考えたりするなどして、探究する意欲をもつことができるかを考える。

③学習過程の工夫

発想や構想を繰り返しながらよりよい表現に生かす場、創造的な技能を高める場、自他の表現や取組のよさを感じ合う鑑賞の場等を工夫する。[共通事項]を視点とした言語活動や、教師からの声かけ、製作過程の記録等の手立てを工夫することで、子供が創作意欲を高めたり、自己の変容や学びを自覚したりできるようにする。

④指導と評価の一体化

フィールドマップ等の記録や振り返りを基に、製作の過程にも目を向け、子供の思いや願い、表したいこと等を踏まえて評価し、指導に生かす。

◆◆◆ 家 庭 科 ◆◆◆

<目指す子供の姿>

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、家族の一員として生活をよりよくしようと工夫する子供

<授業実践の重点>

①生活の営みに係る見方・考え方を働かせる

「生活の営みに係る見方・考え方を働かせる」とは、家族や家庭、衣食住、消費や環境などに係る生活事象を、協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の継承・創造、持続可能な社会の構築等の視点で捉え、よりよい生活を営むために自ら生活の問題を見付けて課題を設定し、主体的に課題の解決に取り組む姿とする。

②実生活との関連を図った問題解決的な学習の充実

子供の思考の流れを大切に、計画、実践、評価・改善という一連の学習活動を重視した問題解決的な学習を充実させ、学習した内容を実際の生活に活かす場を設定する。さらに、目的や視点を明確にした上で、考えの背景を話し合う場等をつくることで、対話的な学びを促し、自分の考えを明確にしたり、互いの考えを深めたりすることができるようにする。

③「指導と評価の計画」の作成

指導と評価の一体化を図るために、指導と評価の計画を作成し、一人一人の学習状況を的確に捉え、記録に残したり指導や支援につないだりすることができるようにする。

◆◆◆ 体 育 科 ◆◆◆

<目指す子供の姿>

体育の見方・考え方を働かせ、運動の楽しさや喜びを味わう子供の育成（運動領域）

保健の見方・考え方を働かせ、健康で安全な生活に向けて実践しようとする子供の育成（保健領域）

<授業実践の重点>

①体育・保健の見方・考え方を働かせる

・運動やスポーツを「する・みる・支える・知る」の多様な関わり方と関連付け、運動について肯定的な気持ちを育みながら学習に取り組む姿とする。
・病気の予防やけがの手当の原則及び、健康で安全な生活についての概念等に着目して捉え、病気にかかったり、けがをしたりするリスクの軽減や健康の保持増進と関連付けて課題解決に取り組む姿とする。

②体育・保健の見方・考え方が働く授業の構想

単元で中心となる学習内容を明確にした上で、多様な「できる」を想定する。個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実をより一層図る。

③子供の動きの要因にアプローチできるようにするための教材研究

教師は「指導と支援」を見極め、子供に適切に働きかけることができるようにする。

④対話を効果的に取り入れた授業づくり

「体育科ならではの対話」の場面を具体的に想定する。

◆◆◆ 道 徳 科 ◆◆◆

<目指す子供の姿>

主体的・対話的に自己の生き方についての考えを深め、よりよい生き方を求めようとする子供

<授業実践の重点>

①道徳的な見方・考え方を働かせる

「道徳的な見方・考え方を働かせる」とは、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める姿とする。

②一人一人に願う子供像を思いえがき、主題を設定する

主題を設定する際には、「子供の実態把握」「内容項目の解釈」「教材の分析」を往復して行う。内容項目の解釈においては、内容項目の「関連」と「深層」の二つを捉えていくことで、子供の反応を豊かに予測することができる。

③主体的・対話的な状況が生まれるための学習指導の構想

主題を設定した後、子供がどのような考え方をもつのか、それらを比べるとどのような違いが生まれるかを想定し、そのような状況が起こり得る発問を考える。その上で、一人一人の考え方の違いが顕在化されるような、多様で柔軟な働きかけ（問いかけ、問い返し、指名の順番、タイミング、間等）を意図的に行う。

授業の前提は、温かな人間関係である。日頃から教師や仲間との信頼関係を築き上げる実践を心掛けたい。

◆◆ 外国語活動・外国語科 ◆◆

<目指す子供の姿>

外国語による言語活動を通して、主体的・対話的にコミュニケーションを図ろうとする子供

<授業実践の重点>

①外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせる

これは、外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、再構築する姿とする。

②指導計画の工夫

新しく出合う語句や表現に慣れ親しんだ上で、それらを用いて相手を意識して考えや気持ちを伝え合うなど、段階的に外国語に慣れ親しみ、コミュニケーションの意欲を高めることができるようにする。

③言語活動の充実

英語を使用し、互いの考えや気持ちを伝え合う必然性のある目的や場面、状況等を設定する。中学年では、コミュニケーションを図る楽しさを体験するとともに、新しい語句や表現との出会いの場を工夫する。高学年では、相手を意識し、表現の工夫について考えられるようにする。

④評価の工夫

学習到達目標を年間指導計画に位置付ける。観測点別の評価場面を精選し、評価基準をALT・JTEだけでなく、子供とも共有する。また、振り返りカードを活用し、子供が自己の学びを振り返り学習を進められるようにする。

◆◆◆ 特別活動 ◆◆◆

<目指す子供の姿>

集団活動における主体的・対話的で深い学びを通して、自らよりよい生活や人間関係を築こうとする子供

<授業実践の重点>

①集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせる

「集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせる」とは、各教科等における見方・考え方を総合的に働かせながら、自己及び集団や社会の問題を捉え、よりよい人間関係の形成、よりよい集団生活の構築や社会への参画及び自己の実現に向けた実践に結び付ける姿とする。

②主体的・対話的で深い学びを引き出す単元構想

学級活動における「主体的・対話的で深い学び」とは、子供が「自分で課題を見付け、共に考えて解決方法を見いだし、実践して振り返る」という一連の活動を繰り返す中で、課題を解決していくことである。このような活動が展開できるように、SPDCA サイクルの積み重ねを意識し、各教科等の学習とも関連付けながら単元を構想する。

③合意形成や意思決定に向けた、話し合い活動の支援

主に、学級会での合意形成に向けては、以下の三つの視点から支援を行う

- ・提案理由の共通理解
- ・合意形成に向かうプロセスにおける教師の出番
- ・合意形成の方法の理解と実践

このような視点に着目して話し合い活動を支援することで、子供たちが納得のいく結論を出せるようになる。

◆◆◆ 特別支援教育 ◆◆◆

<目指す子供の姿>

主体的・対話的に探究し、自らのくらしを豊かにしていく子供

<授業実践の重点>

①教材の工夫

個別の教育支援計画や個別の指導計画を作成して実態を把握し、一人一人の「強み」を基にした、生活に直結した「人・もの・こと」を教材や題材として選定し、提示する。

②単元構想の工夫

指導内容を考えるだけでなく、学びを進めていく子供の感情や思考の道筋を想定し、指導に生かすことが重要である。子供の発した言葉やつぶやき、描いた図やイラスト、動作や行為等、子供の姿をつぶさに捉えながら支援に努める。そうすることで、子供が、自分に必要な学習方法や内容等について考えたり、自分自身の考えや行動等を見直したりできるようにする。自分に合った学び方を見いだし、一人一人の学びを成立させていく過程で、子供は自己調整する力を身に付けていく。

③対話を大切にしたい場の工夫

子供の取組の進捗状況や学びの発展のタイミング、子供を取り巻く人との関係性等を捉えて、様々な対話の場を考えていく。

④指導と評価の一体化

「子供に付けたい力」と子供自身が願う「自分に付けたい力」を擦り合わせた指導や支援と、それに合った評価を重ねることで、子供の自己肯定感を向上させ、自己理解を深めていく。

◆◆◆ 保 健 ◆◆◆

①カリキュラム・マネジメント

保健教育は、体育科保健領域、特別活動、総合的な学習の時間等、関連する教科等でそれぞれの特質に応じて実施し、それらを相互に関連させて、指導できるように努める。

②子供が主体的・対話的に健康で安全な生活を実践するための指導の工夫

子供が保健の見方・考え方を働かせ、健康で安全な生活を送るための課題を見付け、目標を立てて取り組めるようにする。

子供同士の協働、教職員や地域の人との対話を通して、気付きを得たり、自らの考えを広げたり、深めたりすることができるようにする。

③子供の健康な発達を支える協力体制の充実

養護教諭は、専門性を生かして授業に参画していくことや、配慮を必要とする子供に寄り添った個別指導を充実させていく。

子供が健康づくりを継続して実践していけるよう、学校や家庭、地域社会が相互に協力し、健康生活をサポートする体制の充実に努める。